

森林経営活動によるJ-クレジット創出について

～長期継続的森林管理による二酸化炭素吸収の価値が収入に！～

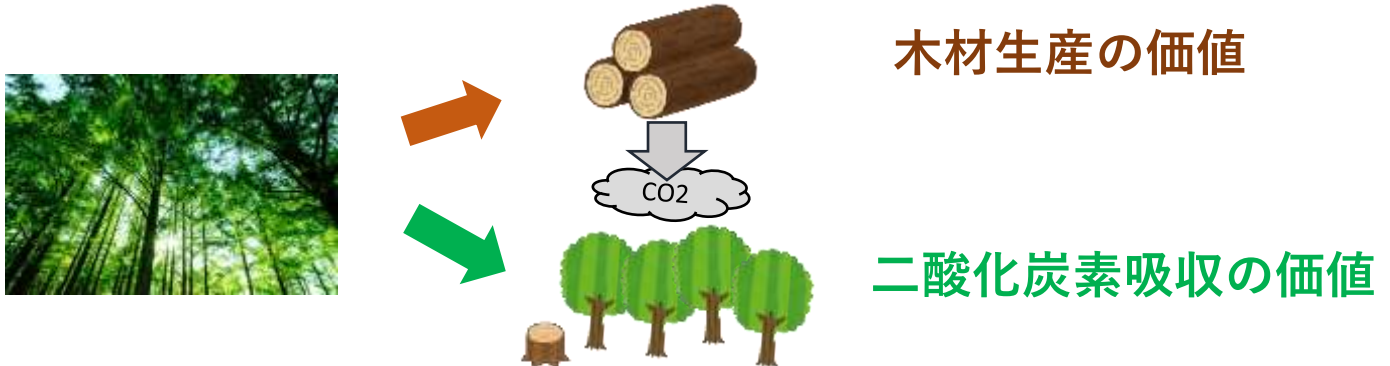
1 そもそもクレジットとは？

近年の地球温暖化の原因として二酸化炭素の排出が問題視されております。

一方で、二酸化炭素を吸収する森林を所有し、適切に維持と管理をしていることに価値が生まれています。つまり、森林は「木材生産としての価値」と「二酸化炭素吸収源としての価値」があると言えます。

この「二酸化炭素吸収源としての価値」を「クレジット」と呼び、丸太や立木同様に資産のように扱うことが出来るようになっていきます。

皆様が所有され森林組合に経営管理を任せていただいている森林であれば、この「二酸化炭素吸収源としての価値」を他者に売って、利益を得ることが可能になります！！



2 J-クレジットとは？ これを買う人は？ その目的は？

森林は光合成により二酸化炭素(CO2)を吸収しており、この機能を「J-クレジット」と呼ばれる国の制度で資産化して、他者に販売することが出来ます。

二酸化炭素を工場の操業などで多く排出する企業が、このJ-クレジットの需要家(買い方)となります。

企業は購入したJ-クレジットを各種報告に利用したり、環境問題への取り組みのアピールに利用したりします。



3 二酸化炭素吸収源の価値(Jクレジット)を売るための条件は？

①森林組合に施業管理を委託した（森林経営計画が策定されている）山林であること

長期施業委託契約により森林組合に管理をお任せいただいている「森林経営計画」に基づく森林経営管理の実施が二酸化炭素吸収活動の拠り所であり、証明となります。

②森林組合への施業管理を長期にわたり継続していただくこと

土地転用や森林経営計画に反する伐採を長期(むこう16～26年間)にわたり実施しな事等に関する覚書をあらためて締結していただく必要があります。つまり、森林経営計画に沿った適正な森林管理を森林組合に委託し続けることに合意いただくことが条件となります。